

令和6年6月28日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立御厨小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

○計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

○実施している

・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第1学年からの英会話学習の実施が、英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっている。第1学年からEAAと接することで、児童は外国人とふれ合うことに抵抗なくコミュニケーションを図ることができている。
- ・1年生でも、どの児童にも話す機会が設けられ、英会話の時間を楽しみにしている児童が多く、学習の成果が感じられる。
- ・低学年からの積み重ねにより、高学年では外国の文化や英語を聞くこと、話すことに抵抗感がなく意欲的な様子がみられる。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

- ・英会話学習の時間を楽しみにしている児童が多く、ALTやEAAに積極的に挨拶をしたり話しかけたりして、自然にコミュニケーションをとることができている。
- ・5、6年生の英語チャレンジDAYでは、海外旅行に行く設定で、多くのALT・EAAを相手に買い物や食事の場面での会話を楽しんだ。より必要感のある体験を通して、英会話の使用場面が明確化された。

<保護者>

- ・英会話学習、外国語活動の様子を学年だよりや学校だよりで紹介することで、家庭で英語の学習について話をするきっかけとなっている。

3. 実施の効果及び課題

- ・授業で早くから外国語に触れ、違う文化を感じ続けていることにより、外国籍の友達に対しても違いを尊重しながら、学校生活を送ることができている。
- ・タブレット学習で、英語を積極的に選んで学習を進める児童が学年を問わず多い。
- ・児童の生活の中で、学習した英語が自然に発せられるようになることを目指したい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・授業ではなるべく教員が英語で説明したり、コミュニケーションを図ったりするよう努め、児童がより英語に慣れ親しむよう取り組んでいく。また、発音を練習する場面ではALTやEAA、デジタル教科書を積極的に活用し、児童のリスニングや発音の力を伸ばしていく。また、教員の発音や会話力を高めるため、普段からALTやEAAと積極的にコミュニケーションを図り英語で会話する機会を設けたり、教材研究をする際には、デジタル教科書を使って発音や会話文をしっかりと確認しALT・EAAとの打合せを綿密に行ったりする。
- ・指導の際には、担任は各学年での学習内容を把握し、系統性を意識して指導にあたっていく。高学年に関しては、オンラインを利用した他校との交流や、修学旅行での班別行動の際に英会話を実践する機会を設ける等、学習したことを実践する場を設定したい。